

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2004-236

(43) 公開日 平成16年1月8日(2004.1.8)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	FI	FI	テマコード [*] (参考)
C12N 15/09		C12N 15/00	ZNAA	4B024
A61K 38/27		A61P 43/00	101	4B064
A61P 43/00		C07K 14/475		4B065
C07K 14/475		C12N 1/15		4C084
C12N 1/15		C12N 1/19		4H045

請求項の数 20 審査請求 有 0L (全68頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	2003172155	(71) 出願人	596168317 ジェネンテック・インコーポレーテッド GENENTECH, INC.
(22) 出願日	平成15年6月17日(2003.6.17)		アメリカ合衆国カリフォルニア・94080 -4990・サウス・サン・フランシスコ・ ディーエヌエー・ウェイ・1
(31) 優先権主張番号	884,811	(74) 代理人	100062144 【弁理士】 青山 稔
(33) 優先権主張国	US		
(32) 優先日	平成4年5月18日(1992.5.18)	(74) 代理人	100068526 【弁理士】 田村 恭生
(31) 優先権主張番号	885,971		
(33) 優先権主張国	US	(72) 発明者	ポール・ジェイ・ゴドウスキ アメリカ合衆国カリフォルニア94044、 パシフィカ、ロマ・ヴィスタ・テラス3 05番
(32) 優先日	平成4年5月18日(1992.5.18)		
(62) 分割の表示	特願1994-503790(P1994-503790)の分割		
原出願日	平成5年5月17日(1993.5.17)		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 肝細胞成長因子変異体

(57) 【要約】

【課題】 huHGF 中にアミノ酸変化を有し、且つ対応する野生型 HGF の実質上完全なレセプター結合親和性を保持している、野生型ヒト HGF (wt-huHGF) の肝細胞成長因子 (HGF) 変異体を提供すること。

【解決手段】 huHGF のアミノ酸 534、673 および / または 692 位にアミノ酸変化を有する、野生型ヒト HGF (wt-huHGF) の肝細胞成長因子 (HGF) 変異体。

【選択図】 なし

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2001-523103

(P2001-523103A)

(43) 公表日 平成13年11月20日(2001.11.20)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	FI	テマコード(参考)
C12N 15/00		A61K 48/00	
A61K 48/00		A61P 35/00	
A61P 35/00		35/04	
35/04		C07K 14/47	
C07K 14/47		A61K 35/76	

審査請求 未請求 予備審査請求 有 (全81頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願平10-546600	(71) 出願人	ローヌ-プーラン・ロレ・エス・アー フランス国、エフ-92160・アントニー 、アブニユ・レイモン・アロン、20
(86) (22) 出願日	平成10年4月27日(1998.4.27)	(72) 発明者	リー、ホン フランス国、エフ-93800・エピネ・シ ュール・セーヌ、リュ・デ・ゼコンド ー、29
(85) 翻訳文提出日	平成11年10月27日(1999.10.27)	(72) 発明者	ルー、ホー フランス国、エフ-93800・エピネ・シ ュール・セーヌ、リュ・デ・ゼコンド ー、29
(86) 国際出願番号	PCT/EP98/02491	(72) 発明者	グリセリ、フランク フランス国、エフ-75014・パリ、プラ ス・ドウ・セウル、12
(87) 国際公開番号	W098/49321		
(87) 国際公開日	平成10年11月5日(1998.11.5)		
(31) 優先権主張番号	60/044,980		
(32) 優先日	平成9年4月28日(1997.4.28)		
(33) 優先権主張国	米国(US)		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 腫瘍治療用血管形成アンタゴニストのアデノウイルスによる腫瘍内送達

(57) 【要約】

本発明は腫瘍を治療するための遺伝子治療に関する。本発明はより詳細には、抗血管形成因子をコードする遺伝子を例えば欠損アデノウイルスベクターにより腫瘍の細胞に導入し、腫瘍の増殖もしくは転移又はその両者を抑制することに関する。特定態様では、ウロキナーゼのアミノ末端フラグメント(ATF)を発現する欠損アデノウイルスを送達して腫瘍の増殖及び転移を抑制した。これらの効果は注入部位の内側及びそのすぐ近傍における血管新生の顕著な阻害と相関していた。アンギオスタチンのクリングル1~3を発現する欠損アデノウイルスベクターを送達すると、腫瘍増殖と腫瘍形成を抑制し、腫瘍細胞のアポトーシスを誘導した。本発明は更に本発明の方法で使用するウイルスベクターも提供する。

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2002-520367
(P2002-520367A)

(43) 公表日 平成14年7月9日(2002.7.9)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	FI	テマコード [*] (参考)
C07K 14/47	ZNA	C07K 14/47	ZNA
A61K 38/48		A61P 17/06	
A61P 17/06		27/00	
27/00		29/00	101
29/00	101	35/00	

審査請求 未請求 予備審査請求 有 (全34頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	特願 2000-559860 (P2000-559860)	(71) 出願人	ブリストル-マイヤーズ スクイブ カ ンパニー BRISTOL-MYERS SQUIBB COM PANY
(86) (22) 出願日	平成 11年7月 7日(1999.7.7)		
(85) 翻訳文提出日	平成 13年1月 12日(2001.1.12)		
(86) 国際出願番号	PCT/US99/15271		アメリカ合衆国ニューヨーク州 10154 ニューヨーク パーク アベニュー 345
(87) 国際公開番号	W000/03726	(72) 発明者	リチャード-ウェイ-ドン・ジ アメリカ合衆国08648ニュージャージー 州ローレンスビル、ホワイト・バイン ・サークル212番
(87) 国際公開日	平成 12年1月 27日(2000.1.27)		
(31) 優先権主張番号	60/092,831	(74) 代理人	弁理士 青山 稔 (外2名)
(32) 優先日	平成 10年7月 14日(1998.7.14)		
(33) 優先権主張国	米国 (US)		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 アンギオスタチンのリジン結合フラグメント

(57) 【要約】

本発明は、癌、糖尿病性網膜症、リウマチ様関節炎、乾癬、アテローム硬化型プラーク形成および血管形成誘導に關与する疾患プロセスの治療のための抗 - 血管形成誘導剤として用いられ得る、アンギオスタチンのリジン - 結合部位を含むアンギオスタチンのペプチドフラグメントに關する。リジン結合フラグメントは、プラスミノーゲンのクリングル 1、2 および / または 4 から誘導される。

(19) 日本国特許庁 (JP)

(12) 公表特許公報 (A)

(11) 特許出願公表番号

特表2002-536458

(P2002-536458A)

(43) 公表日 平成14年10月29日 (2002.10.29)

(51) Int. Cl. 7	識別記号	FI	テマコード* (参考)
A61K 38/48		A61P 15/00	4B024
A61P 15/00		17/06	4C084
17/06		27/02	4H045
27/02		29/00	
29/00	101	35/00	

審査請求 未請求 予備審査請求 有 (全49頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号 特願 2000-598628 (P2000-598628)
 (86) (22) 出願日 平成 12年2月 10日 (2000.2.10)
 (85) 翻訳文提出日 平成 13年8月 10日 (2001.8.10)
 (86) 国際出願番号 PCT/US00/03482
 (87) 国際公開番号 W000/47729
 (87) 国際公開日 平成 12年8月 17日 (2000.8.17)
 (31) 優先権主張番号 60/119,562
 (32) 優先日 平成 11年2月 10日 (1999.2.10)
 (33) 優先権主張国 米国 (US)
 (31) 優先権主張番号 60/128,062
 (32) 優先日 平成 11年4月 7日 (1999.4.7)
 (33) 優先権主張国 米国 (US)

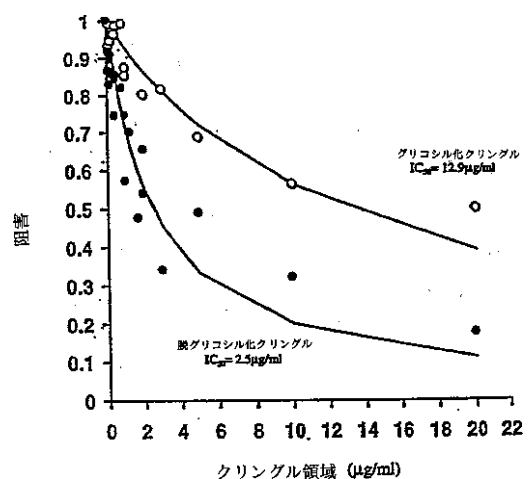
(71) 出願人 エントレメッド インコーポレイテッド
 アメリカ合衆国 メリーランド 20850
 ロックビル メディカル センター
 ドライブ 9640
 (71) 出願人 ザ チルドレンズ メディカル センター
 コーポレイション
 アメリカ合衆国, 02115 マサチューセツ,
 ポストン, ロングウッド アベニュー 300番地
 (74) 代理人 弁理士 遠山 勉 (外4名)

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 プラスミノーゲンの脱グリコシル化クリングル1~5領域フラグメント及びこれらの使用方法

(57) 【要約】

プラスミノーゲンのクリングル1~5領域の脱グリコシル化フラグメント、脱グリコシル化クリングル1~5領域タンパク質をコードしているヌクレオチド及び脱グリコシル化クリングル1~5領域タンパク質に特異的な抗体を開示する。本発明の組成物は以前に単離されたクリングル1~5領域タンパク質と比較したとき、高い抗血管新生活性を有している。本発明には、本明細書に記載した組成物を使用して癌のような血管新生関連疾病及び状態を治療する方法も含まれる。



(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公表特許公報(A)

(11) 特許出願公表番号

特表2004-508048

(43) 公表日 平成16年3月18日(2004.3.18)

(51) Int.Cl. ⁷	識別記号	FI	テマコード(参考)
C12N 15/09		C12N 15/00	ZNAA 4B024
A61K 35/12		A61K 35/12	4B064
A61K 35/76		A61K 35/76	4B065
A61K 38/00		A61K 39/395	D 4C084
A61K 39/395		A61K 39/395	N 4C085

審査請求 未請求 予備審査請求 有 (全97頁) 最終頁に続く

(21) 出願番号	2002525820	(71) 出願人	501185028 カロリンスカ イノベーションズ アク ティー エボラーグ
(22) 出願日	平成13年8月31日(2001.8.31)		スウェーデン国, エス-171 77 ストック ホルム
(31) 優先権主張番号	60/230,893	(74) 代理人	100077517 【弁理士】 石田 敬
(33) 優先権主張国	US	(74) 代理人	100092624 【弁理士】 鶴田 準一
(32) 優先日	平成12年9月5日(2000.9.5)	(74) 代理人	100117019 【弁理士】 渡辺 陽一
(86) 国際出願番号	EP2001010090	(74) 代理人	100082898 【弁理士】 西山 雅也
(86) 国際出願日	20010831	(74) 代理人	100081330
(87) 国際公開番号	WO2002020813		
(87) 国際公開日	20020314		
(85) 翻訳文提出日	20030305		

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 内皮細胞増殖阻害物質に関する材料と方法

(57) 【要約】

タンパク質分解酵素は内在性血管新生阻害物質の生成に関与しており、またウロキナーゼ活性化プラスミンはプラスミノーゲンをプロセッシングして血管新生阻害物質K1~5(プロテアーゼ活性化クリングル1~5)を放出させることが既に立証されている。しかし、このタンパク質分解性タンパク質(タンパク質分解性クリングル1~5)は細胞から分泌(輸出)される仕組みを欠くため、治療薬としての用途に限られる。本発明者は、適正な折りたたみ能を有し発現後に細胞から分泌されうるようなプラスミノーゲン由来の組換えタンパク質を作り出した。本発明者は意外にも、該組換えタンパク質は適正な折りたたみ能を有し分泌されうるためには、プラスミノーゲンに由来する分泌シグナルペプチドと予備活性化ペプチドとを含まなければならないことを発見した。